チャレンジコミュニティ通信

Challenge Community Club

第35号
2017.7 vol.35

芝地域・ノウゼンカズラ

10期生箱根研修会グループ別討論会

10期生修了式

CONTENTS

■ごあいさつ
港区長　武井 雅昭
明治学院大学 社会学部教授　河合 克義
CCクラブ 代表　斎藤 正精
■2017年度CCクラブ新体制の紹介
■学ぶ喜びと出会いをありがとう!
～10期生から寄せられた声～
■運営委員会報告・活動紹介

チャレンジコミュニティ通信は、地域活動推進の情報を提供します

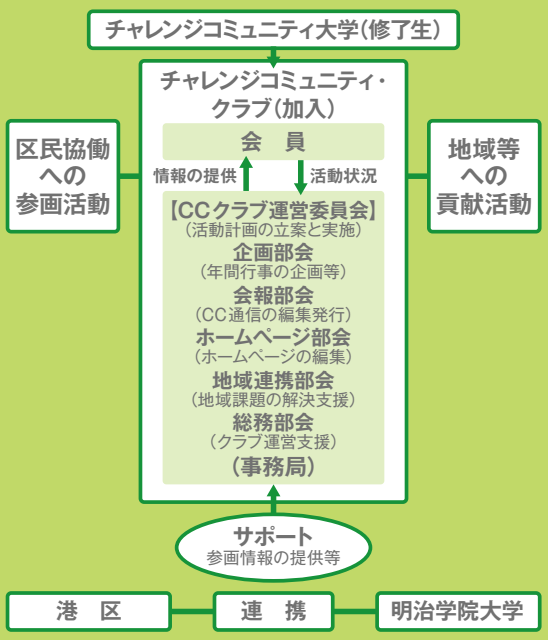
港区は、2007年の4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳を超えた高齢者を対象に夫々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、主にクラブ会員を対象に地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

港区からは、区民参画、協働への推進等に関する情報、また地域社会活性化への貢献に資する団体、機関等への参加、NPOやボランティア団体等への参加、地域防災組織等地域の安全・安心活動への参加等、多岐に亘る情報提供を得ていきます。また会員相互の情報としては各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を紹介していきます。

本年もこの通信は会員皆様にとって役立つ情報を発信し、また皆様からも活発なご意見や情報を頂きながら、より充実した内容を目指していきたいと考えています。



チャレンジコミュニティ・クラブ第10期生の皆さんへ

■港区長　**武井 雅昭**

チャレンジコミュニティ大学を修了された皆さんが、地域貢献活動に熱意と意欲を抱かれ、第10期生として、チャレンジコミュニティ・クラブに入会されましたことを、心からお祝い申し上げます。

チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さんは、港区基本計画地区版計画書の区民参画による検討組織や各総合支所との地域活性化のための協働事業、更には、ボランティアグループ等の地域福祉活動など、地域社会において多方面でご活躍いただいております。

このたび、明治学院大学が、「平成28年度東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞（教育機関分野）」を受賞されました。これは、区との連携によるチャレンジコミュニティ大学の運営とチャレンジコミュニティ・クラブへの継続的な支援を評価されたもので、区としても、大変嬉しく思います。

近年、人々の価値観やライフスタイルが多様化し、家庭環境や地域における人と人とのつながりも大きく変容しています。地域コミュニティの重要な担い手である町会、自治会でも会員数の減少や高齢化が進み、会の活動への参加が低調になるなど、活動の担い手不足が課題となっています。こうした方面においても、是非、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんに活躍していただくことを期待しています。

私は、これまでの区民参画や地域における協働によって築いてきた、区民の皆さんとの強い信頼関係のもと、活力と魅力に溢れ、多様な人や文化が共生する「区民一人ひとりが誇りに思える成熟した国際都市」の実現に向けて、全力で取り組んでいます。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんには、今後も、地域コミュニティの育成や活性化を推進するリーダーとして、地域の課題解決に向けご活躍いただくようお願いいたします。

チャレンジコミュニティ・クラブの今後益々の発展と、会員の皆さんのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

外部への発信力 ―チャレンジコミュニティ・クラブ10周年に寄せて

■明治学院大学社会学部教授 河合 克義

チャレンジコミュニティ・クラブ（CCクラブ）がスタートしてはや10年となりました。CCクラブは、チャレンジコミュニティ大学（CC大学）の修了生による同窓会組織としてスタートしましたが、今では外部に向かって、多様な活動を展開し、問題提起をする団体になってきました。

CC大学は、昨年、10周年を迎え、記念事業の一環で、CCクラブ会員への活動調査を実施しました。その『活動報告書』（2016年12月発行）には、会員に対する調査と活動グループに対する調査の２つの結果が収録されています。

調査結果を見てみます。まず、CCクラブ会員の男女比は、女性が６割、男性が４割です。年齢階層は、60歳代が全体の４割、70歳代が５割を占めています。80歳代は、5.5%でした。「入学後新しい友だちがたくさんできたと思う」人が、全体の８割となっています。地域活動については、活動しているが６割強、活動していないが２割半（無回答12.7%）でした。地域活動、社会福祉活動の内容については（複数回答）、最も多い活動は、「高齢者支援」が全体の４割、次いで「趣味・教養を生かした支援活動」が２割半、「地域防災」が２割、「緑化・環境美化」が２割弱、「障害者支援」や「子どもへの支援」がそれぞれ１割強、民生委員と町会・自治会の会長がそれぞれ１割弱となっています。

他方、グループを組織して活動している団体数は、2016年１月現在、215となっています。そのグループの活動内容をみると、高齢者支援活動が２割、町会・自治会に関わる活動が２割強、民生委員・児童委員の活動が１割強となっています。今、こうした地域の組織が地区ごとに連絡協議会を作って情報交換を行うまでになっていることは注目に値します。

グループの活動は、いま、CCクラブの会員の枠を超えて、地域住民、学生が参加してきています。CCクラブの活動は新たな段階に入っているように思います。

いま、外部への発信力が問われているのではないでしょうか。

チャレンジコミュニティ・クラブの新年度運営方針

■CCクラブ 代表 斎藤 正精（6期）

新年度の方針は「**クラブをさらに活発化させ、CCクラブの継続・発展性を高めていく**」です。ここ２年間でクラブ運営基盤の強化に力を入れ、昨年は各部会や全体活動で新しいことにチャレンジしました。

新規の活動を軌道にのせ定着させていくため、できるだけ多くの会員の皆様にクラブ運営やプログラム推進役を経験していただき、組織的に活動ができるような体制をとっていく必要があります。主な活動としては港区、港区社会福祉協議会、明治学院大学やラクっちゃ（港区介護予防総合センター）・各いきいきプラザなどの外部組織や団体との協働を今まで以上に推進し、地区CCクラブ、各期グループや個別活動の横展開を支援し、クラブからの情報発信を多様化しタイムリーにするため、イベント主催者、部会、地区CCにレポーターを置き発信・投稿を増やすようにします。また運営委員会やイベントで参加した方が役割を十分発揮できるようにする工夫が必要と考えております。

一方、各イベント実施にはある程度の活動資金が前提になり、昨年は初めて活動紹介のパネル展にて寄付金を募りました。クラブが継続・発展していくにはある程度の活動資金が前提となり入会金などによる資金調達についての検討が必要です。またCC大学からCCクラブ会員への入会手順も定める必要があり喫緊の課題としてとりくんでいきたいと思います。

４月中旬に明治学院大学にて行われたCC大学11期生入学式に参列しました。６期生の私にとっては５年ぶりでしたが式次第は例年通り粛々と行われ、60名の新入生をまえに学長の武井区長をはじめ区関係の来賓祝辞があり、修了後の地域コミュニティ推進への期待のスピーチがありました。式に参加してCC大学とCCクラブへの地域からの期待を改めて感じました。CCクラブ会員が地域コミュニティ推進のためにリーダシップを発揮することが住みやすい街づくりへの貢献につながります。会員の皆様が改めて初心にもどりチャレンジ精神を発揮することを期待いたします。

2017年度CCクラブ新体制の紹介

副 代 表　　丸山 保夫（７期）

高齢者の福祉に関する課題は沢山あります。高齢化に伴って増えていく病気や衰弱への対応、高齢者の貧困、孤独の問題、介護要員の不足等々。このために行政はじめ各団体が色々な施策を講じています。

一方、国の予算配分が高齢者福祉に偏りすぎているのではないか、という意見もあります。事実、現在でも色々な高齢者福祉の恩恵がありますし、今の若者が高齢化した時に更にこれが良い状況になっているかは疑問です。

この世代間に生ずる可能性がある福祉格差が世代間の不信につながることが特に心配です。勿論、社会的な対応が期待されますが、我々としても世代間の理解をより深める努力が必要ではないでしょうか。

ＣＣクラブではその意味で、子供、若者、お父さんお母さん世代とも交流をし、お互いの世代に不信を持つのではなく、お互いに助け合い、良く知り合うことにも積極的に取り組みたいと思っています。

副 代 表　　及川 廣子（６期）

私は３Ａクラブの代表経験や女性の立場から、日ごろ感じていることを具体的なＣＣクラブの活動に少しでも反映できたらと思っています。どんな団体・組織でも同様ですが、自分たちだけで何らかの行動を起こすことには限界があります。幸いにも港区には、いきいきプラザなどで地域活動に活発に取り組んでいる多くの団体や個人がおられます。

その人たちと区との協働連携の取り組みを加速させてはどうかと考えています。更に地域クラブが抱えている様々な課題や悩みの相談・支援に応じられるＣＣクラブになればとも思っています。そして、躍動感の溢れるＣＣクラブ活動を通して誰もがお互いを気遣う優しい社会となるよう微力ながら力を注ぎます。どうぞよろしくお願いいたします。

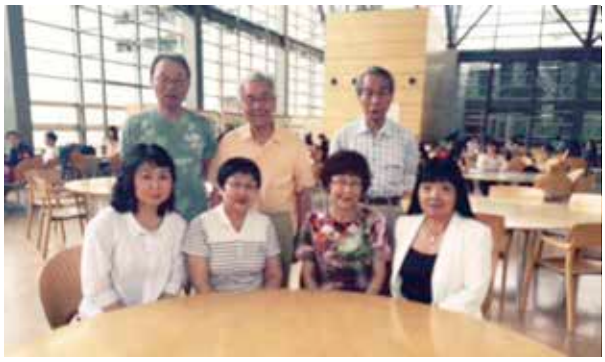
企 画 部 会　　平岩 力（４期）

ＣＣクラブの企画行事を担当するのが企画部会です。今年度の部会メンバーは、平岩力④、岩村道子①、野口美津子②、村上英一郎⑥、山口明子⑦、伊藤早苗⑧、阿部令子⑩、恩地亨輔⑩の８名で担当いたします。

行事は年間を通して、ＣＣクラブ会員がもっと一人ひとりの絆を深められることを目指して計画しています。詳細はＨＰでご覧ください。

また、企画にあたっては、会員の意見や情報を広く聞き、「参加をしたくなる企画」の立案に努めます。これが企画部会の今年の行動指針です。全員参加の明るく楽しい行事開催が出来るよう部員一丸となって頑張ります。

皆さんの新しい発想や、ご意見をどうぞお聞かせください。一人でも多い会員の参加を心からお待ちしています。どうぞよろしくお願いいたします。



地域連携部会　　野村 知義（８期）

求められている「地域力」−連携・協働の推進者として

本年度の主な活動は、ＣＣクラブ会員の活動の様子をクローズアップＣＣで情報を随時発信し、各地域ＣＣクラブの活動状況を共有し、交流を深める地区ＣＣ会議を４回開催します。

港区と協働し、ＣＣクラブ会員が主体的に運営するコミュニティカフェについては、会員相互と地域の方々との交流の輪を広げ、各地域ＣＣクラブで展開されつつあります。「地域力」の担い手として、様々な形態・協働により活動が具現化されています。

小さな活動は、日頃から互いに顔の見える地域社会を醸成させることに役立っています。ＣＣクラブ活動を推進するに欠かせない地域連携部会では、他部会と

協調して部員一人ひとりが楽しく主体的に行動し、部会内のイベントを通して部員間の懇親を深めて行きたいと思います。

ホームページ部会　　高田　英夫（８期）

600 人近い会員が仲間として一体感を感じながら情報を交換し、互いに切磋琢磨してＣＣクラブとして活動をしていくために、ＨＰは重要な情報ツールです。

しかし、ここ数年の投稿数は伸びず、投稿する人も限られた人に偏っています。今年はＣＣクラブ各期の活動、各地域ＣＣの活動がＨＰ画面を賑わして、楽しいＨＰになって欲しいと願っています。

ＨＰに投稿する方法が分からない方には、昨年作成した「投稿マニュアル」を紹介し、広く会員に使っていただくために、マニュアル説明会を前期に集中して開催していきます。

また、閲覧する会員の増加をはかるために、見て楽しいＨＰになるように画面構成し、コンテンツを充実させたく、部会員全員で努力していくつもりです。

会 報 部 会　　太田 則義（７期）

ＣＣクラブは新しい仲間を迎え今年で 10 年になります。会報部会は７名の部員で３回の刊行を予定し、活動します。ＣＣ通信の内容について皆さんからも意見を頂いておりますが、基本的にはＣＣクラブ内での活動報告と同時にクラブ会員の日常活動を少しでもご紹介したいと思っています。昨年、ＣＣ大学 10 周年記念「活動報告書」のなかでＣＣクラブ９年の歩みが紹介されましたが、ＣＣクラブの行事と会員の活動を目次形式で紹介しました。ここでもＣＣ通信の記録的役割が大いに役立っております。会員の活動紹介は誌面スペースの関係で充分ではありませんが、ホームページとの連携も視野に入れ表現したいと思います。ＣＣ通信は会員全員に確実に届く媒体ですので、その機能をこれからも大切にし、活動していきます。

総 務 部 会　　秋元 宏（８期）

設立されてから２年目の新しい部会です。

総務部会は、ＣＣクラブの運営に必要な総会や運営委員会などの資料取りまとめ、議事録の作成・配信、イベント情報などの一斉通信の実施（郵送を含む）、名簿管理（メールアドレス）などを行っています。

ＣＣクラブも 600 名近くの組織になり、会員の皆様の地域に密着した活動は関係者から注目を浴び期待されています。私たちが提供する情報が、円滑な地域活動の推進、会員相互の交流、個々の活動に役立ち、また会員自らが活動に参加して、共に楽しむことが出来ることにつながることを願っています。

現在、部会員は８名ですが、月に２、３回集まり、総務の仕事をしながらも部会員同士が楽しめるような場を考え、楽しい仲間ライフを送っています。

学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～10 期生から寄せられた声～

ＣＣ大学では、一般教養，社会福祉等いろいろの授業を受け大変勉強になり、友人もでき楽しくあっという間の一年間でした。授業やグループ活動の中で、地域や社会福祉に一生懸命活動している人や、社会福祉の必要性や、多くの課題があることも知りました。私も地域で何か役立つことをしなければならないと言う気持ちになり、ボランティア活動や町会の活動に参加するようになりました。　**中村 正光**

大変有意義な一年間でした。地域の実態を知ったこと、コミュニケーションの大切さを再認識したこと、考え方が似ている友人に出逢えたこと。仲間と相談しながら地域で誰かの役に立つ活動ができたら最高ですね！　Ｍ．Ｓ．

入学式（白金校舎アートホール）

ＣＣ大学に通った体験は、学んだ内容が幅広く期待に添ったと思われ、さまざまな意味で刺激になった。また、新たなことを考えるきっかけとなった。今更ながらの知識の発見につながった。大変貴重な機会を得られたと思う。この体験をどう今後の自分の中に生かすか、これは自分なりの目標、関わり方、やり方があると当初より考えており、その点で即、ＣＣクラブ活動の参加にはつながりにくいことを感じている。　**宮崎 紘一**

ＣＣ大学での最大の成果は、広範で価値ある知識を習得したという事であり、これらは、私たちの人生において貴重な支えとなることでしょう。更に知識に加え、私たちの意識も大きく変わりました。社会や行政が抱えている課題を目の当たりにし、行動の必要性を認識し始めました。これらの知見を礎に、安全安心な地域づくりに今後とも貢献できるよう、努力していきます。　Ｈ．Ｋ．

ＣＣ大学で、福祉・文学・スポーツ・経済・区政など沢山の事を学ばせていただき、楽しく充実した一年間でした。今は自治会の役員となって防災にも力を入れて、地域に貢献していきたいと思っています。　**須江 綾子**

地域に生きることへの新たな視点を得た、というのが最大の収穫です。修了後はまず身の周りの出来ることから始める決意で、すでにいくつかのことをスタートさせています。もうひとつの収穫は、素晴らしい仲間を得たということです。我々第 2 グループの 19 人はビール、ワイン、ウイスキー、酒、焼酎などの多様で大量の触媒を介して強く結ばれる、という理想的な状況の下で 4 月からの「新世紀」へ突入することが出来ました。多謝！　**日吉 泰史**

知らないことを知る喜び、新たな出会いに感動！学習を通して学ぶことの大切さを改めて感じ、貴重な体験でした。これからの人生に活かして参ります。今後の募集要項に関しての提言です。グループ活動を大きく明記する必要性があるのではないでしょうか？グループ活動を通して、独自に調査、体験したものは、16 テーマ 21 回に及び個人的には勉強になりましたが、相当な時間を要する取り組みでした。　**今村 恵美子**

ＣＣ大学 10 期生になれた幸運を修了式 3 月 11 日に改めて再認識いたしました。無趣味の自分が

楽しみにしているのが旅でありその旅を興味深く関心を高めるにあたり、その国その土地の歴史風土を勉強するのが自然の成り行き。港区に住んでこれらのカルチャー講座が沢山あることを知り幾つかに参加したところ、先輩たちからＣＣ大学の存在を教わり 10 期生として申し込みました。結果としてＣＣ大学にて地域活性化に必要な知識、スキルの勉強になりこれからの活動の参考になりました。　**田村 喜一**

身の回りの景色が変りました。これまで見えなかった高齢者や障害者、貧困の問題など、港区でも例外ではないこと、資本主義の限界、福祉社会の将来など、改めて考えさせられました。歳を忘れて学ぶ機会を頂き、有り難く思います。地域に仲間が出来たこと、これが 10 年も続いて多くの先輩がいることは、自分のみならず、港区、地域社会にとって宝になります。ＣＣ大学に、今後のわが国の地域社会のあり方について、一つの光を見ました。　**丸山 幸秀**

ＣＣ大学では社会福祉関係の講義を主体として地域行政、法律、美術、音楽、文学、体育など多分野に亘るカリキュラムが組まれており、久しぶりの学生気分で学ぶ楽しさを新鮮に感じながら受講しました。一方で、自分は地域社会のために何ができるだろうかと自問しながら過ごした一年間でもありました。そして今は、ＣＣ大学 10 期生の修了生であることを誇りに思いつつ、地域住民の一人として自分にできることで何かお役に立つことができれば、と思っています。先ずは地域ＣＣクラブへの登録、芝浦港南ベイアッププロジェクトへの参画など、小さな一歩を踏み出したところです。　**岡部 正實**

チャレンジコミュニティ大学号（！？）に当選し、一年の「船旅」をした気分です。心地よい“船酔い”が未だ止まりません。皆様との出会いと楽しい体験に感謝！！　**加藤 邦子**

著名な教授陣の講義・授業の進め方、又多岐に亘る分野において新しい発見がありました。美術館の見学なども、学芸員の解説付きで感激致しました。ただ、時間的な問題と思われますが、「広く浅く」と言う感がありました。特に興味のある科目には。

今後はオープンキャンパスなどを利用してゆきたいと思っています。又、多くの優秀な仲間達と出逢い刺激を受け、忙しい中にもボランティアで活躍をしている姿に接し、こちらのマインドも高まってきました。有意義な一年でした。　**Ｏ.Ｍ.**

港区の広報にあるＣＣ大学の募集を読み、その講義内容に魅力を感じて応募した。一般教養や社会見学も勿論だが、福祉・経済多岐にわたり、一流の講師陣の授業は充実していた。自分の住む地域の実情や課題を知ることもでき、それにより一層港区に愛着を持つことができた。又、何より今まで知らなかった人達と同じ学びの場を持つことができ、グループ活動を通して課題をみつけたり、討論したり、行動することで親密感を持つことができた。これを、自分のこれからの生活や地域活動にもつなげていきたいと思う。　**金原 智子**

いきいきプラザで先輩から勧められ、ＣＣ大学に入学しました。地域活動に無縁なため不安でしたが、先生方の真剣で丁寧な授業に、学ぶことの楽しさを十分味わうことができました。また、同期に地域活動経験者がいて適切な指導があり、ボランティア活動も経験することもでき充実した一年間でした。これからは、健康に留意してＣＣクラブや同期の集まりに参加して、自分に何ができるかを探し、無縁とはおさらばしたいと思います。　**金子　実**

広報でＣＣ大学を知り応募したところ運よく合格しました。55 年まえの学生時代に学んだ事を思い、一年間通うことができるか不安でしたが無事修了できました。親友がだんだん減るなか若い仲間が増え楽しい時間を過ごしています。現在は法律学科今尾教授のゼミに参加しております。港区、明治学院大学に感謝しております。　**西村　清**

多岐にわたる講義、熱心な教授陣で広い分野の学びができ、日ごろ知り合うことのできない、経験豊かな様々な友人を身近な地域で得ることができました。そして、あまりにも知らな過ぎた身近な地区、港区の地域資源やコミュニティ活動の具体的内容を知り「繋がる」という言葉を意識した一年でした。ありがとうございました。今後この得たもの、「繋がり」をいかに続けて、広げていくかが課題です。　　境　静子

退職後の空虚な気持ちを何かで埋めたいことも理由の１つでスタートした学生生活でしたが、想像以上に充実した一年間でした。アカデミックな雰囲気の中で専門分野の先生方から受ける授業は毎回楽しく、そして何よりグループ活動を通して地域の仲間と繋がることができました。今後は、この繋がりも大切に、地域の中で何か役立ちたいと思っています。この様な機会をくださった明治学院大学の先生方・港区役所関係者の方々・事務局の方々、そしてＣＣ大学 10 期生の方々に心より御礼申し上げます。　　今井 美智

当初久しぶりに大学の授業を受けるということで、すごく楽しみでした。その期待を裏切らず、すごく楽しい講義でした。しかも、今の私たちに必要だと思われる講義内容がたくさんあり、興味を惹かれこれからの生活にも役に立つだろうと思います。今後、地域コミュニティの中で自分に何ができるかいまだわかりませんが、できることから、やっていきたいと思っています。　　Ｎ．Ｓ．

入学式では学生数を上回る勢いの豪華顔ぶれでびっくりしました。授業カリキュラムは多岐にわたり一気に教養が深まった気がしました。グループ分けで濃密な人間関係を築くことが出来て人生の大きな財産となりました。担任の今尾法学部長に触発されて改めて法律への興味が湧き上がりました。箱根合宿は修学旅行並みの興奮を与えてくれました。修了式に出て儀式の重みを実感し涙しました。運営事務局の皆さまにひたすら感謝です。ありがとうございました。　　まめ太郎

気楽な気持ちで応募したＣＣ大学第 10 期でした。「少しは趣味の領域を広げることに役立つかな」位の気持ちでした。一年間に得られた知識の幅はものすごく広いものでした。教室から飛び出して実際に現場を訪ね、そこで働く職員の方々から生の声を聞くことが出来たことは得がたいものでした。講師陣の熱意にも感謝します。今後も指導を仰げればと願います。　　Ｓ．Ｓ．

地域コミュニティへの結びつき入口として、ＣＣ大学に参加させていただきました。同じ地域に住む同年代の方々と知りあえ、講義を通じ福祉をはじめとするボランティア活動につき討議できたことは大きな収穫でした。今後はこの経験を活かし、少しでも地域コミュニティに貢献できるように取り組むつもりです。　　瀬能 正実

芸術鑑賞（バッハアカデミー合唱団特別演奏会）

会社生活を卒業後、社会参加が難しくなる年齢の私たちに社会参画の機会を提供いただける「ＣＣ大学」の企画に感謝しています。とりわけ事務局の皆様には毎回親切に対応いただき、また多彩な講師陣の皆様には大変感謝しています。カリキュラムにつきましては、各方面をうまく取り入れられたと思います。ＣＣ大学 10 期生と交流できたことは今後の財産です。この企画の発展を願っています。　　阿比野 裕

今振り返ると、私のＣＣ大学入学の動機は「世代を超えて価値を共有できる社会づくりのために」活動したいということでした。大学ではこの思い

を共有できる多くの仲間に巡り合い、志を同じくする人は意外に多いのだと気づき力をもらいました。大学で学びながら、できることはすぐやろうと決め、「自治会役員」「マンションの防災検討会」「サロンへの参画」が新たな取り組み事項になっています。 Ｈ．Ｉ．

地域で友人を作ろう、福祉の専門職の経験を地域で生かす道を探したいと参加しました。ＣＣ大学の福祉関係の講義は、復習となり、新しく現状認識を加えることができました。また、保健の実践的な勉強は日々の健康生活に有用と感じました。今後は、同期との交流を大切にしながら、まずはカフェ活動に参加させていただき、子ども関係、相談などの活動に拡げられたらと思っています。

大沼 礼子

ＣＣ大学では、地域活動に必要な知識だけでなく、かけがえの無い仲間を得る事ができました。地域リーダーを目指すといった難しい事はできませんが、自分達の暮らす地域を益々魅力的な町にする為に、出来る事は何かと考えながら､仲間に支えられ励まされながら、楽しく地域活動に関わっていきたいと思います。充実した時間を用意してくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。

阿部 令子

ＣＣ大学では、企業組織での現役を終え、地域社会とどうかかわっていくかを模索していた者にとって、トータルで、かつ老化に向けた健康管理面にも気づかいをした優れたカリキュラムで学習させていただいた。男女学生とのフレッシュな交流会を含め、楽しく前向きになれた一年間であった。これを糧に価値ある貢献を身近なところから進めていきたいと考えている。 Ｔ．Ｎ．

社会教育に関心があり、ＣＣ大学に応募し、一年間学ばせていただきました。地域の方々と交流ができ、又、港区で今、どんな事が課題となっているのかや区内の文化施設の見学、社会問題等々知らなかったことを幅広く教えていただき、大変有難うございました。おかげ様で新しい活動の場として、日本語を教えるボランティアをみつけることができました。 **佐藤 久代**

自然探索（舞岡公園）

グループには現に福祉に携わっている方々がおられ、会社人間のままＣＣ大学に参加した身にとって、「何をすべきか、何ができるのか」を中々見出せない悩みを抱えた一年でした。そんな中で、「自分が住み続けたい街にする」ことを動機にされている講師のお話をお聞きし、肩の力が抜けた感がしました。授業では多方面から学びましたが、私にとって、この想いを学べたのが一番の収穫だと感じております。 **恩地 亨輔**

何を隠そう、ＣＣ大学受講のきっかけは、高橋源一郎先生の講義があったから。地域に貢献するという意思表明も苦しまぎれだった。それが一年間、多彩で魅力的な講座の数々に刺激を受け、知的で前向きな仲間の存在を意識するごとに、地域に何がしかの種を蒔いて花咲かせたいと思う私がいる。恐るべしＣＣ大学！発足に関係された河合克義先生にエールを送りたい。 Ｋ．Ｉ．

一年間通学させて頂き有難うございました。とても楽しく、有意義な一年でした。楽しい友人達とも巡り会い、恵まれた港区に居住する幸せを感じました。これからは、地域社会に目を向け生活して行こうと思っております。

今泉 昌代

一年間様々な講義を受け、見学に出かけ自分の世界が広がりました。また、新しい仲間と出会い、話し合いを重ねたのも得がたい経験でした。今まであまりなかった地域への関心も生まれました。一年間学んだ事を大切にし、自分が出来る事にチャレンジしていきたいと思います。ありがとうございました。

Ｙ．Ｋ．

学ぶ事の面白さ、知る事の楽しさを改めて感じるとともに、学習を通じ地域にはどのような課題があり、自分には何が出来るのか気づきのヒントにもなりました。ただ知識の収集をするに留まらず、実際の活動を以て他の人に働きかけることが必要であることも学びました。港区に誰もが最後まで住み続けられるよう、自分も相手も元気になるような活動に取り組んでいきたいと思います。

武藤 正美

私達10期生のＣＣ大学でのカリキュラムは、過去９年の歴史と実績の上に構築された充実した内容でした。取り上げられた課題の豊富さ、実地見学、校外学習の場もあり、どの授業も大変興味深く、学びの多い一年間でした。また、グループ編成があったことで、多くの受講生の方達と知り合え、ＣＣ大学入学前まではほとんどなかった地域に対する関心が深まったことは嬉しい成果でした。

曽木 紀代子

年間のカリキュラムはとても充実し、多岐にわたる講義からは様々な角度から物事を見つめることの大切さを教えていただきました。年齢を重ねてもスポンジのように多くのことを吸い込んで、柔らかくいることが理想でしたので、大きな手助けとなりました。人や街のことをこれほど考えた時間はありません。これからは何かしら風を起こしていく存在になりたいと思います。

新堀 治子

主人の勧めで受講を決めたものの、仕事もあり修了出来るのか不安でしたが、幅広い分野の勉強が出来た事、共に歩める仲間を得られた事など、有意義な一年になりました。さまざまな学びを通して、誰もが共に安心して暮らせるコミュニティの大事さもより強く感じました。今の私に何が出来るのか模索中ですが、まず地域に貢献しながら、自分の居場所作りをしていく予定です。

峯崎 光恵

ＣＣ大学一年間を振り返り思うこと！

不安と緊張で臨んだ入学式から、あっという間の一年間でした。多種多様なカリキュラムで、どれもが興味引かれるものばかりでした。講義の中でも、特に高齢者に関する福祉分野に強い関心を持ちました。今後、どのような形で地域社会の福祉に貢献できるかを考え、港区等のセミナーに参加させて頂いております。60 歳代から学べる場を提供して頂いたこと、そして健康である事に感謝しております。

渡辺 説子

人生の最終章は、長年住む港区に返礼がしたいと「介護相談員」になりまして、より良い活動に向けて福祉を学びたく、ＣＣ大学に入学させて頂きました。学生生活は（特養入居者・デイサービス利用者の笑顔を内に抱き）10 期生の皆様と、数十年前へタイムトリップしたように楽しく励みました。修了後は、さらに身近な「３Ａ」で地域の交流・サポートもしたいと、新たな道のりに希望を抱いております。

綾木 和子

数年前に会社を子供に引き継ぎ、区立小学校でサイエンスアシスタント（SA）をしています。理科教育の支援を行うと共に、近未来の科学者育成に、細やかながらサポートしたいとの希望を抱いています。高齢になっての学生生活はカンフル剤のようで、こうした活動にもＣＣ大学よりエールを頂きました。今後はSAとして理科教育に携わり、地域住民との交流も深めたいと考えています。

綾木 和雄

気づいたら仕事ばかりで港区に無関心でした私に、ＣＣ大学で一年間勉強する機会を与えて頂き心から感謝しております。仕事との両立は大変な

時もありましたが、授業は飽きずに楽しくかつ、考えさせられる一年間でした。一年後私の変化①広報を熟読②いきいきプラザで地域の方との交流③色々な経験や体験特に社会福祉協議会の活動を知る等。今後、高齢者をひとりにしないための高齢者へのサポート活動･交流会等に参加を考えていきます。残念だったのは、グループ以外の方との交流が少なかったことですね。　　**松嶋 惠美子**

大変お世話になり、有難うございました。週２回の義母訪問がなくなり、丁度良い好機と、軽い気持ちで申し込みました。多彩な講義、実技、見学等々、結構充実したカリキュラムでした。所属した第１グループは多士済々で、自由闊達な雰囲気で、課外交流にも、任意参加で楽しめました。担任の今尾教授の挑発？にのり、その後、ゼミ等に参加、マンネリ化しがちな生活に、一寸した風穴が開き、そこからのそよ風を楽しんでいるこの頃です。　　**鶴丸 迪子**

昨年は、東京に移り住み４年弱の頃で、もっと自分の住んでいるところを知りたいなあ！と思って応募したのがきっかけでした。この一年間の講義は、行政・福祉・文化芸術など多岐多様に亘る内容でこれからの自分に大きな糧となりました。今後は様々な活動に携わる中で、地域の方々とのコミュニケーションを図って行きたいと考えています。　　**福岡 哲郎**

一年間という短い期間に広範囲且つ多岐に亘り、凝縮された授業を受けさせていただきました。中でも箱根での研修は､学生時代に戻った様に､自分の思い、グループメイトの考えを熱く語り合い貴重な時間を共有する事が出来ました。この経験をこれからのボランティア活動等にしっかり生かして参ろうと思います。諸先生方、大学職員の皆さん､全ての 10 期生に感謝しております。　　**Ｅ．Ｋ．**

数々の有益な講座もさることながら、ＣＣ大学で一番素晴らしかったことは、思いを同じくする地域の方たちと共に学び、共に地域のことを考える機会を持たせていただいたことです。近くに住みながら、見知らぬ人、見知らぬ施設、活動として通りすぎてきたものが大学の学びを通して目の前に大きく広がってきた感じがします。　　**Ｋ．Ｓ．**

一年間、質の高い授業を受けさせていただきました。知識を得るだけに留まらず地域社会に還元していくという課題はこれからも残っていきますが、地域福祉の現場で活動している方々に直接触れて取り組む姿勢を教えて頂きました。リーダー育成という目標には到達できていませんが、自分の出来るボランティア等で少しずつお手伝いをしていこうと思っています。　　**中曽根 待子**

学生時代に明治学院大学と交流があり、その地で学ぶ機会を得られた感激はひとしおでした。楽しかった講義、体育実習、箱根合宿、横浜出身のため特に衝撃を受けた寿町見学、グループでの支所・サロン訪問、そして皆勤で迎えた修了式等々が頭を巡ります。現在様々な集りでＯＢ等に巡り会うことが出来るのも、10 年を超えたＣＣ大学を支えてくれた港区と明治学院大学の多くの皆様のお陰と感謝しています。　　**杉村 和男**

箱根宿泊研修会にて

■運営委員会報告

2017年度運営部門メンバー 一覧

	代 表	斎藤 正精 ⑥	副 代 表	及川 廣子 ⑥	丸山 保夫 ⑦

	運 営 委 員		運 営 委 員		運 営 委 員
1 期	❷ 岩村 道子 ❸ 古橋 義弘	5 期	❶ 呉 東冨	8 期	❶ 杉田 洋一 ❷ 可知 隆志 ❸ 松木 勇
2 期	❷ 野口 美津子	6 期	❷ 植木 俊雄	9 期	❶ 野瀬 太盛 ❷ 谷村 宏 ❸ 石賀 幹春
3 期	❷ 雨宮 武				
4 期	❷ 鈴木 豊子	7 期	❶ 牧野 正道 ❷ 小倉 剛 ❸ 中村 恵津子	10 期	❶ 恩地 享輔 ❷ 瀬能 正実 ❸ 岡部 正實

	部 会 長	部 会 員			
企画部会	平岩 力 ④	岩村 道子 ①	村上 英一郎 ⑥	伊藤 早苗 ⑧	恩地 享輔 ⑩
		野口 美津子 ②	山口 明子 ⑦	阿部 令子 ⑩	
会報部会	太田 則義 ⑦	大竹 裕 ⑤	吉村 秀子 ⑦	山田 紀子 ⑧	
		忍足 惠一 ⑥	榎本 和夫 ⑦	今井 美智 ⑩	
ＨＰ部会	高田 英夫 ⑧	石田 幸子 ⑤	斎藤 正精 ⑥	石賀 幹春 ⑨	池畑 博実 ⑩
		佐々木 博子 ⑤	峯崎 恵紀 ⑦	福岡 哲郎 ⑩	
地域連携部会	野村 知義 ⑧	桝田 秀子 ④	西山 和子 ⑦	安田 光一 ⑨	
		及川 廣子 ⑥	小原 久世 ⑧	今泉 昌代 ⑩	
総務部会	秋元 宏 ⑧	石川 啓子 ⑧	髙橋 和子 ⑧	清水 由紀子 ⑨	丸山 幸秀 ⑩
		井手 正勝 ⑧	岩佐 徳太郎 ⑨	安達 周 ⑨	

地 域 C C ク ラ ブ			
芝CCクラブ	高田 英夫 ⑧	明虹会（港南･芝浦･台場地域）	斎藤 正精 ⑥
高輪地区CCクラブ	村岡 洋二 ②	3Aクラブ（赤坂･青山･麻布地域）	及川 廣子 ⑥

運営委員の❶～❸はグループ、その他の○数字は期を表示します

■活動紹介

地域連携部会では2016年度クローズアップCCにて次の活動を「地域活動便り」として紹介しました。

○地域活動便りNo.34（2016.10.06）　「赤坂青山地域で元気人を創造して6年」

○地域活動便りNo.35（2016.12.01）　「朗読ボランティアグループ･ことばつむぎ」

活動の詳細はホームページ一般サイトの活動紹介をご覧ください。

地域連携部会では、地域でさまざまな活動をしているCCクラブ会員の身近な姿を紹介しています。紹介したいグループは地域連携部会にお問い合わせください。

編集後記

2017年度第１号目のCC通信35号は修了生の感想文を掲載しましたが、如何でしたでしょうか。今年も多くの修了生から寄稿がありましたが、今後の皆様の活動を期待しております。会報部会方針にも書きましたが、今年のCC通信の発行は3回となりました。誌面には限界がありますが、ホームページとの連携も含め、CCクラブ行事や会員の活動の紹介をしたいと思います。皆様のご意見をお寄せください。

（7期　太田則義）

チャレンジコミュニティ通信　vol.35　2017年7月1日発行
発行者　チャレンジコミュニティ･クラブ
事務局　明治学院大学　総合企画室社会連携課
（株式会社明治学院サービス）
〒108-0071　東京都港区白金台1-2-37
Tel.03-5421-1555　Fax.03-5421-1556
Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp
http://www.minato-ccc.jp

表紙写真協力／平尾恭一様（9期）

会報部会
部会長　太田　則義（7期）
部　員　大竹　裕（5期）
部　員　忍足　惠一（6期）
部　員　吉村　秀子（7期）
部　員　榎本　和夫（7期）
部　員　山田　紀子（8期）
部　員　今井　美智（10期）